

特別支援 自立活動 授業の見所

目指す子どもの姿

- ①課題意識や必要感をもって進んで学ぶ子
- ②自分の思いや考えを伝え合い、学び合う子
- ③自らの成長や他者と学ぶ価値を自覚する子

1. ICT を活用し、バッドモデルから改善策を考える姿【目指す姿②との関わり】

今回の授業では、ICT を活用して教員によるドッジビーの場を再現した映像を用いることで、子どもたちが視覚的に情報を受けとることができるように工夫しました。

映像では、ドッジビーが上手くいかない場面を5つ提示します。それをもとに、ドッジビーをする上で「良くない人」や「良くないところ」、「改善策」を子どもたちに考えさせます。具体的な場面を映像で見せて考えさせることで、子どもたちが考えを持ちやすくなると考えました。

また、映像だけでなく黒板にもドッジビーの再現例の写真を貼って残すことで、映像モデルの「問題点」や子どもたちが考えた「改善策」を視覚化し、必要に応じて確認したり振り返ったりできるようにしました。

2. 自分の目標を発表し合うことで課題を明確にする姿【目指す姿①との関わり】

学び合う場面のはじめに、これまでの授業の中で子どもたちが考えた「話合いの目標」を担当教諭や支援員に伝える機会を持たせました。そのことにより、子どもたちが自分で立てた「話合いの目標」を意識しながら話合いを行うことができ、確実なスキルアップにつながると考えました。また、「話合いの目標」について振り返って自覚化させることで、本時の場面でのゴールイメージを明確にさせます。

3. グループ別に話し合う内容を変えることで、話合いをスムーズに行う姿【目指す姿②との関わり】

話合いの場面では、子どもたちの実態に応じて3つのグループに分かれて指導を行います。

それぞれのグループでは、目指す姿として、社会生活で必要とされる以下の力を設定しました。

1グループ：コミュニケーション、意志決定、問題解決

2グループ：寛容さ、共感性、問題解決

3グループ：傾聴、自己決定、意志決定、問題解決

4. 振り返りシートの活用【目指す姿③との関わり】

今回の授業では、自己評価と自由記述によって振り返りを行います。

振り返ることが苦手な子どもたちが多いため、一人一人の力に応じて、教師と子どものやりとりや教師からのフィードバックを通して、「話合いの目標」に対する自分の到達度や良かったところを明確にできるようにします。

月 日 () 時間目

時間	記録	思ったこと・考えたこと